

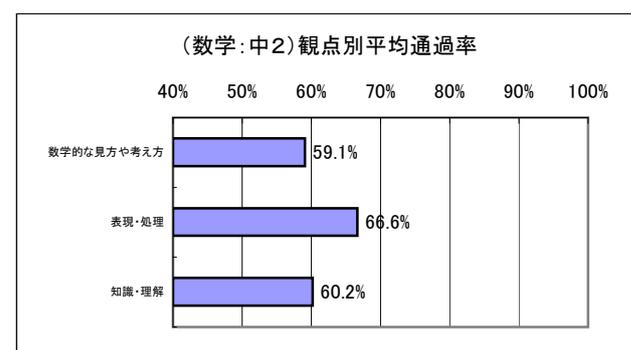
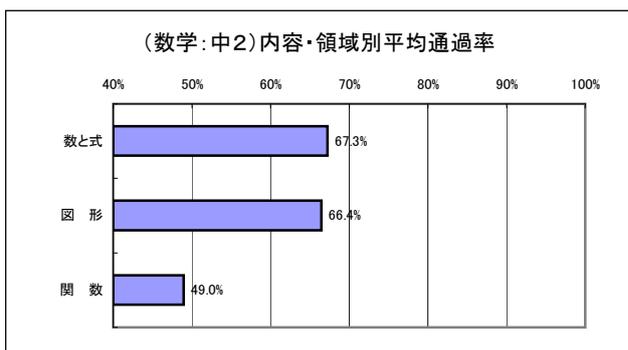
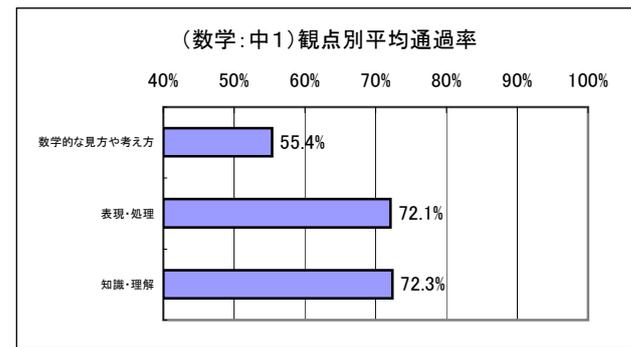
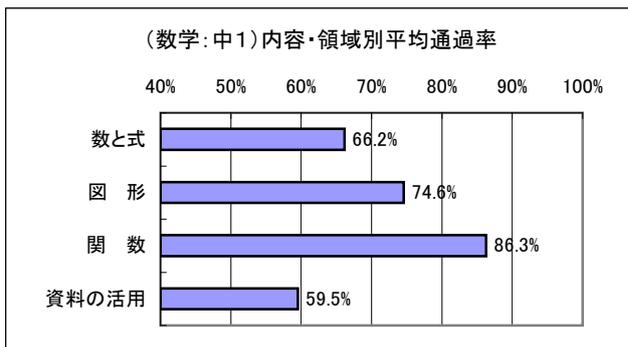
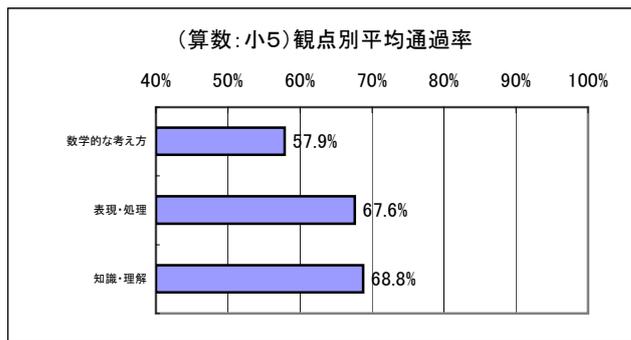
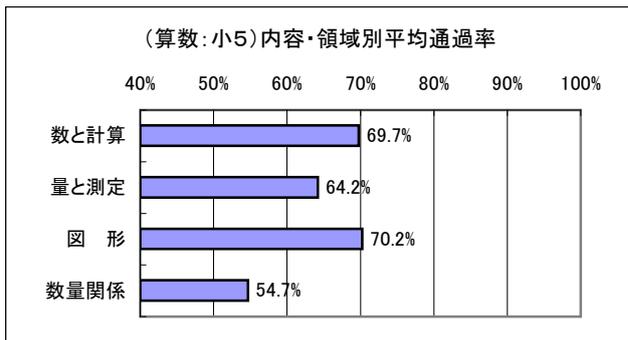
(3) 【算数・数学】

学年別平均通過率

小5 66.0%

中1 69.7%

中2 63.2%



小学5年

- 「数と計算」「図形」の通過率がほぼ70%程度であり、簡単な四則の計算の問題は、概ね定着しているが、小数の乗除に関する計算の仕方や概数について意味理解が不十分である。
- 「数量関係」では、伴って変わる2つの数量において対応する数量を求めたり、2つの数量の間にあるきまりを見つけたりする問題の通過率が低い。
- 「数学的な考え方」では、昨年度同様文章問題から数量関係の式を読み取る問題に課題がある。

中学1年

「図形」「関数」の通過率が70%を超えているが、「資料の活用」については資料を整理し、表にまとめたり、そのまとめた表の特徴を記述したりする問題の通過率が低い。また、移行措置に伴い新しく加わった内容である文章問題から数量関係をとらえ不等式で表す問題の通過率が低い。

- 「数学的な見方や考え方」では、数量の関係を図や式に表し、規則性の考え方を生かしながら発展的に問題を解決する力が不十分である。

中学2年

- すべての内容・領域別とも70%を下回っており、特に「関数」については、2つの数量が比例・反比例の関係にあるかどうかを考察する問題や比例・反比例の関係を立式する問題、反比例のグラフ上にある点の座標を求める問題の通過率が低い。

「数学的な見方や考え方」では、文字式を用いた説明を読み取り、新たに活用する力や事象から数量の変化を読み取り、その様子を表したグラフを適切に判断する力が不十分である。

【 特に定着を図りたい問題 <小5算数> 】

- ② 小数の計算における乗数と積の大きさ、除数と商の大きさの関係について理解しているかどうかをみる問題

通過率 (39.8%) 無解答率 (0.4%)

② 次のア～エの計算で、計算の答えが3.6より大きくなるものをア～エの中から2つ選んで、その記号を の中に書きましょう。

ア 3.6×0.8

イ 3.6×1.3

ウ $3.6 \div 0.9$

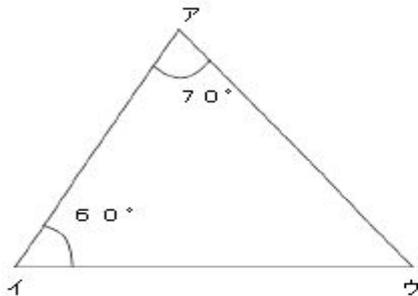
エ $3.6 \div 1.2$

と

- ⑥ 三角形の図形の性質をもとに、不足している条件を見つける問題
(移行措置の内容)

通過率 (42.2%) 無解答率 (0.4%)

⑥ 下の三角形と合同な三角形をかきたいと思います。あと1つどこをはかれば、よいですか。正しいものを1つ選び、 の中に番号を書きましょう。



- ① 角ウの大きさをはかる。
- ② 辺イウの長さをはかる。
- ③ 辺アイの長さをはかる。

○ 小数の計算における乗数と積の大きさ、除数と商の大きさの関係に関する問題や図形の合同に関する問題の通過率が低かった。特に除法と商の大きさについての理解が不十分である。また、図形についての観察や構成などの活動を通して、その性質を見付けたり、確かめたりすることが不十分である。

○ ②は、数量の関係をとらえ、乗数と積の大きさ、除数と商の大きさの関係について理解できているかを問う設問である。

○ ⑥は、図形の合同について、合同な三角形になるための条件を理解しているかをみる設問である。

○ 小数の乗除に関する計算の意味や計算の仕方を言葉や数、式、図、数直線を用いて考え、説明する算数的活動を充実させたい。

○ 図形の合同の問題は、合同な図形をかいたり、作ったりする活動の中で、どのような条件を用いれば合同な図形をかいたり、作ったりすることができるかということに着目し、合同について実感的に理解させることが大切である。

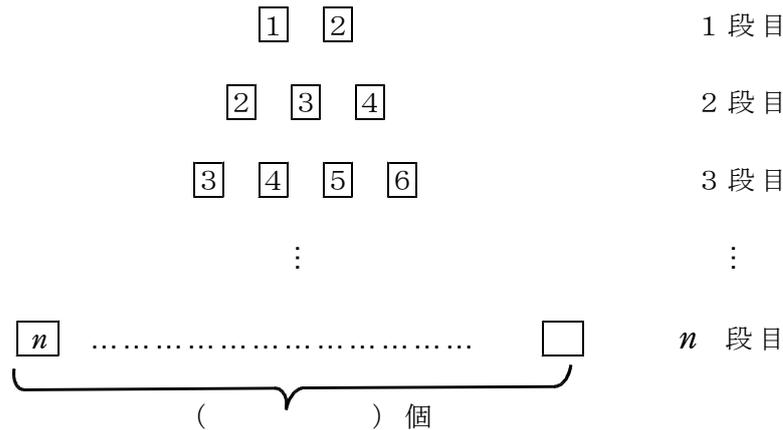
○ 図形の合同は、学習指導要領の移行措置に伴い、本年度から小5年で履修する内容であるが、従来は中2年で履修しており、中学校での効果的な取組の共有化を図るなど、小中の連携を図る必要がある。

○ 小学校学習指導要領解説算数編 P 143～149, P 155～158
鹿児島チャレンジ P 4

【 特に定着を図りたい問題 <中1数学> 】

- 2 3 (1), (2) 事象の規則性を見つけ、場合の数を具体的に求めたり、数量の間の関係を文字式を用いて表すたりすることができるかどうかを問う問題
- | | |
|-----------------|--------------|
| (1) 通過率 (58.6%) | 無解答率 (4.3%) |
| (2) 通過率 (31.8%) | 無解答率 (16.3%) |

下の図のように、1段目には、 $\boxed{1}$, $\boxed{2}$ の2個の自然数を、2段目には、 $\boxed{2}$, $\boxed{3}$, $\boxed{4}$ の3個の自然数を、3段目には、 $\boxed{3}$, $\boxed{4}$, $\boxed{5}$, $\boxed{6}$ の4個の自然数をならべることとする。このとき、次の(1), (2)の問いに答えよ。



- (1) 6段目の1番右側の数は何か。
- (2) n 段目には自然数が何個ならばか。 n を使って表せ。

○ 具体的な事象の規則性を見つけたり、帰納・類推的に考えたりして、一般的な法則を予想し発見する問題の通過率が低かった。文章問題を読み取り、事象を理解する力が十分でない。

○ (1)の問題は、具体的な事象からその中にある数量やその関係を文字式を使って表現し、一般的に把握する見方や考え方の定着をみる設問である。

○ (2)の問題は、段数と自然数のならびの関係を帰納や類推によって発見的に捉え、規則性を見出し、その考え方を生かしながら数量を一般化することができたかをみる設問である。

○ 文字で用いた式に具体的な数を代入する活動を通して、文字がいろいろな値をとることを意識化し、文字で用いた式の理解が深まっていく。そのような活動を繰り返し、数量やその関係を文字を用いた式で表したり、文字を用いた式の意味を読み取ったりするなど、数学的活動を通して「数学的な見方・考え方」を育成する必要がある。

○ 学習指導要領解説数学編 P 59～60
鹿児島ベーシック21年度改訂，22年度改訂 $\boxed{1}$

【 特に定着を図りたい問題 <中2数学> 】

3 文字式を用いた説明を読み取り，新たな場面に活用し，説明することができるかどうかを問う問題

1	通過率 (65.0%)	無解答率 (12.0%)
2	通過率 (49.8%)	無解答率 (28.0%)

3 下の図は，ある月のカレンダーである。カレンダーの中にある3つの数を囲むと，いろいろななきまりがあることが分かりました。次の問いに答えなさい。

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

1 () のように，縦に並んだ3つの数の和は，どこで考えても3の倍数になることを文字を使って次のように説明した。次の「ア」にあてはまる式を書け。

説明

縦に並んだ3つの数のうち，中央の数を n (n は整数) とすると，残りの2つの数は， $n-7$ ，「ア」と表される。

これより，縦に並んだ3つの数の和は

$$(n-7) + n + (\text{ア}) = 3n$$

n は整数だから， $3n$ は3の倍数である。

したがって，縦に並んだ3つの数の和は3の倍数になる。

2 () のように，斜めに並んだ3つの数の和は，どこで考えても3の倍数になることを文字を使って次のように説明した。() に説明の続きを書け。

説明

斜めに並んだ3つの数のうち，中央の数を m (m は整数) とすると，

残りの2つの数は，

したがって，斜めに並んだ3つの数の和は3の倍数になる。

- 数の関係を文字で表す問題や提示された例をもとに，3つの数の関係を説明（証明）する問題の通過率が低かった。理由としては，具体的事象を文字を使って数量を一般化することや文章問題を読み取り，記述することを苦手としているためである。
- 1の問題は，縦に並んだ3つの数の関係を文字式で数量及び数量の関係をとらえ，それを式に表現したり，式の意味を読み取ったりする能力をみる設問である。
- 2の問題は，提示された例をもとに，数量の関係を文字を使って説明（証明）を記述させる設問である。
- 説明（証明）する学習においては，以下の点に留意すること

- ア 説明（証明）することを構想し，方針を立てること
 - ・ 結論を導くために何が必要であることを明らかにすること
 - ・ 与えられた条件を整理すること
 - ・ 着目すべき性質や関係を見いだすこと
- イ 方針に基づいて説明（証明）をかくこと
- ウ 説明（証明）を振り返って新たな性質を見いだすこと

このことを意識した指導を繰り返すことが大切である。

- 学習指導要領解説数学編 P 58～60
鹿児島ベーシック（中学2年用 P 3）及び21年度改訂版²，22年度改訂版¹

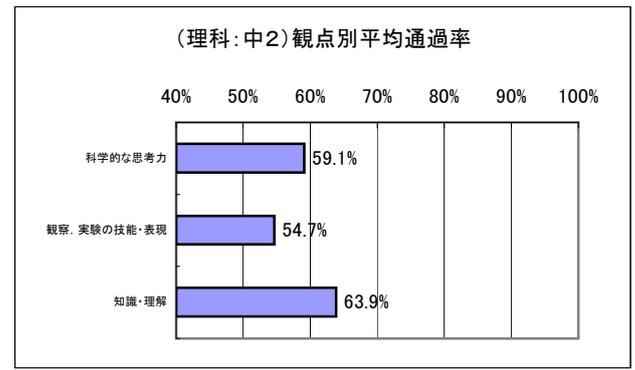
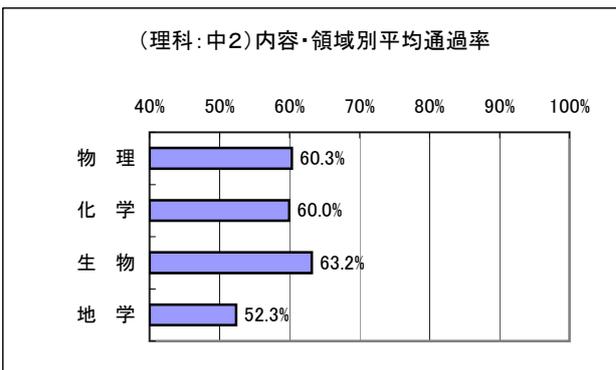
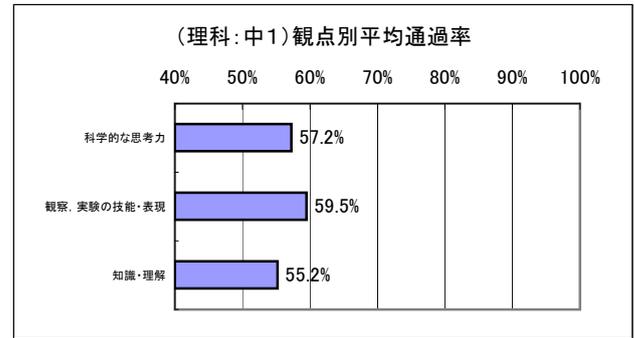
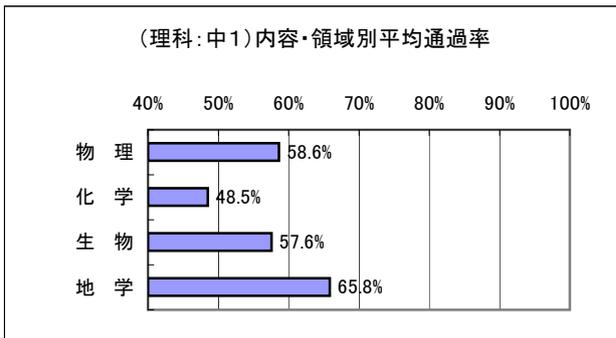
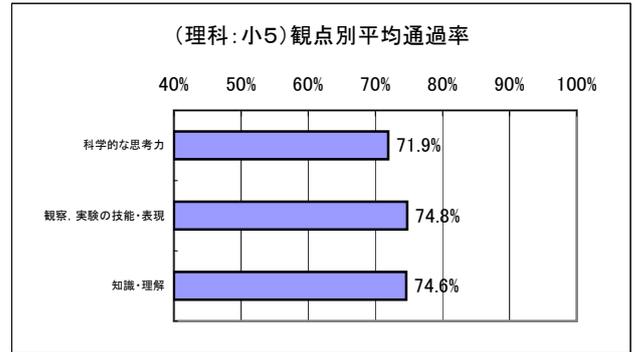
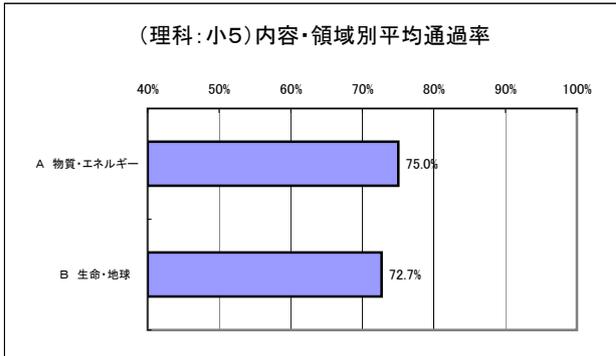
(4) 【理科】

学年別平均通過率

小5 73.6%

中1 57.0%

中2 59.5%



小学5年

- 移行措置に伴う「振り子の運動」の理解は定着していた。過去の調査で40%の通過率だった「温度変化に伴う空気と水の体積の変化」も80%を超え大きく改善された。
- 通過率が50%前後だった「植物の成長の条件」や、観察による実感を持った理解が求められる「月の動き」や「水中の生物」については、指導の重点化が必要である。

中学1年

「種子をつくらない植物の仲間」などの移行措置に伴う新しい学習内容や「光と音」「水と圧力」「水溶液」などの視覚的に実感しにくい現象の理解が不十分であった。

- 新学習指導要領では、学習内容について日常生活とのかかわりで理解を深め、知識を体系化すること、つまり確かな概念形成を図ることを重点としている。観点別通過率では、「知識・理解」が最も低く、概念形成を図るための指導方法改善が早急に求められる。

中学2年

- 記述により理由や仕組みを説明する問題の通過率は、昨年度より平均で15%改善されたが、無答率が22%の問題もあり、科学的な思考力を伴う表現力の育成が必要である。
- 肺循環、体循環に関連した血液や血管の理解については、過去3年間で改善が不十分であり、心臓を中心とした循環経路のモデルで理解を深めさせることが求められる。

【 特に定着を図りたい問題 <小5理科> 】

- ② (1) 条件制御による比較を通して、科学的なものの見方や考え方を問う問題
 (2) ② (1) 通過率 (55.2%) 無解答率 (0.1%)
 (2) 通過率 (45.7%) 無解答率 (0.2%)

② 正子さんは、インゲンマメが成長するのに必要な条件を満たすために、**図**のような実験をしました。次の問いに答えましょう。

図

あ 日光に当てる。 水をかける。

い ダンボールのはこをかぶせる。 肥料を入れた水をかける。

う 日光に当てる。 肥料を入れた水をかける。

え ダンボールのはこをかぶせる。 水をかける。

※ インゲンマメは、すべてパーミキュライトに植えてあります。

(1) 正子さんは、インゲンマメが成長するのに必要な条件を満たすために、**図**のあとうの成長の様子をくらべました。正子さんはインゲンマメが成長するのに何が必要だと予想したのでしょうか。次のア～エから最も適当なものを1つ選んで、その記号を口には書きましょう。

ア 日光が必要である。 イ 肥料が必要である。

ウ 適当な温度が必要である。 エ 水が必要である。

(2) 正子さんは、実験をはじめ一週間後、**い**と**え**の様子を観察しました。**い**と**え**の様子として次のア～エから最も適当なものを1つ選んで、その記号を口には書きましょう。

ア いもえも、大きく成長している。

イ いは大きく成長し、えは葉の色が変わり育っていない。

ウ えは大きく成長し、いは葉の色が変わり育っていない。

エ いもえも、葉の色が変わり育っていない。

- 植物の成長の条件について、環境条件を制御しながら育て、両者の成長の様子と比較から考察する科学的な思考を求めた。また、習得した知識を活用して判断することも求めた。
- 条件制御で、統一する条件と制御する条件との混同が見られ、対照実験の意味の理解が不足している。また、植物の成長における日光の条件について、その知識を活用し、論理的に思考することが不十分である。
- 植物を育て、観察した成長の様子を整理して結論付ける丁寧な探究活動が大切である。発芽の条件、成長の条件、花のつくりの違いなど学習で、条件制御の考え方をくり返して、習熟させるようにする。

- ①① (3) 観察・実験の結果から習得された知識・理解の定着を問う問題
 通過率 (54.0%) 無解答率 (0.7%)

③ 正子さんが、その日の午後11時すぎに観察すると、月は西の空にせずもうとじていました。このとき、正子さんが見ていた月のようすとして、最も適当なものを次のア～エから1つ選んで、その記号を口の中には書きましょう。

ア

イ

ウ

エ

- 月は1日のうちでも時刻によって位置が変わることについて、観察やその記録を通じた、実感を伴った理解を求めた。
- 昨年度より通過率は改善されているが、定着度は不十分であり、観察とその結果の整理による確実な定着が必要である。

○ 新学習指導要領では、6学年で「月の位置や形と太陽の位置」、中学校で「月の運動と見え方」が導入される。系統性において本内容は基本となり、確実な定着が求められる。また、日中、学校での観察が難しい場合、夜間の観察を課題として取扱うことが想定される。その際の事前指導においては、安全面への配慮の他、時間、方位、動き方など、観察の視点を明確にして、月の形による位置と時間との関係を理解させることが大切である。

【 特に定着を図りたい問題 <中1理科> 】

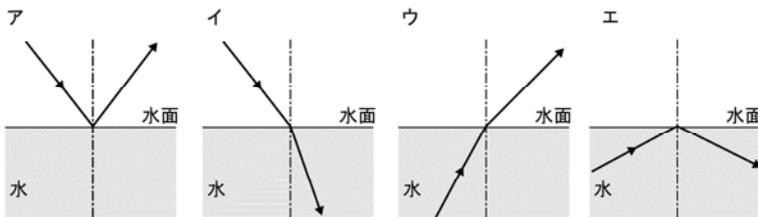
③ 1 (1) 習得した学習内容を生活とのつながりで説明する，深い理解を問う問題
 通過率 (14.7%) 無解答率 (0.3%)

③ 次の各問いに答えなさい。答えを選ぶ問いについては，記号で答えなさい。

1 次の(1)・(2)の現象が見られるのは，光がどのように進んでいるからか。光の道筋を正しく表しているものを，図1のア～エからそれぞれ1つずつ選べ。

- (1) プールに入り，水中の自分の足を見ると実際より短く見える。
 (2) 山の風景が近くの湖に映っている。

図1

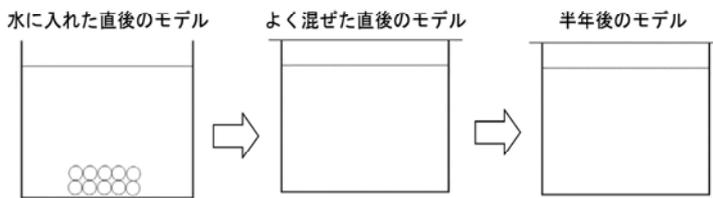


○ 光の性質の「屈折」について，日常生活で生じる現象を解釈し，現象のしくみを光の道筋で説明することで，深い理解を求めた。

- 「屈折」の現象そのものは理解しているが，光の道筋の認識が不十分である。視覚で捉えている像は，「光が目に入る方向で進んでくること」への理解を深めさせる必要がある。
- 日常生活で体験する視覚的な現象について，より多くの事例を光の道筋で説明する学習を取り入れ，概念形成を図るようにすることが大切である。

⑦ 2 視覚的に確認しにくい現象をモデルで説明する，深い理解を問う問題
 通過率 (28.6%) 無解答率 (3.7%)

2 茶色のコーヒージュガーの粉末を100gの水に静かに入れ，よく混ぜるとうすい茶色の水溶液になった。その後，容器を密閉し，温度を一定に保ったまま半年間保管した。よく混ぜた直後のモデルと半年後のモデルをかけ。(ただし，「水を入れた直後のモデル」に記入された10個の粒は，コーヒージュガーの粉末のモデルであり，粒の数は変化しないものとする。)



○ 水溶液の性質である「溶質が均等に分散すること」と「その状態が半永久的に続くこと」の2つの観点について，粒子のモデルで表して説明する，深い理解を求めた。

- 観察・実験では，有色の結晶を水に溶かし，どの部分も同じ色の濃さになることから，溶質が均等に分散することを見いださせる。その際，学習のまとめで，「水溶液は透明であること」を確認するが，「溶質が均等に分散すること」への認識が深まらず，理解が言葉の上だけに留まっている。
- 水溶液の濃度が均一になる状態を粒子のモデルで説明する学習活動を取り入れ，イメージ化を図ることが必要である。粒子概念の基礎となるものであり，原子・分子や化学反応，イオンの学習につながる重要な概念である。新学習指導要領でも粒子のモデルで説明できることが求められている。

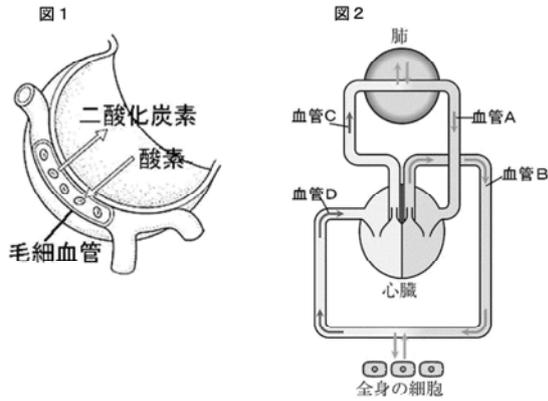
【 特に定着を図りたい問題 <中2理科> 】

2 1 (2) 習得した知識を体系化し、総合的な理解を問う問題

通過率 (32.9%)

無解答率 (0.2%)

1 図1は肺胞における気体の交換のようすを、図2は心臓を中心としたヒトの血液循環のようすを模式的に表したものである。



2 図2の血管の中で静脈はどれか。最も適当な組み合わせを次のア～エから1つ選べ。

ア 血管Aと血管B

イ 血管Aと血管D

ウ 血管Bと血管C

エ 血管Cと血管D

○ 肺循環と体循環における血液の循環経路から、血液を仲立ちとして各器官が関連し合っていることや、その機能を支える循環系の意義について、総合的な理解を求めた。

○ 肺循環で、血管名と血液名が逆になる理由について、心臓を中心とした血液循環と血管のつくりを関連させて理解することが不足している。

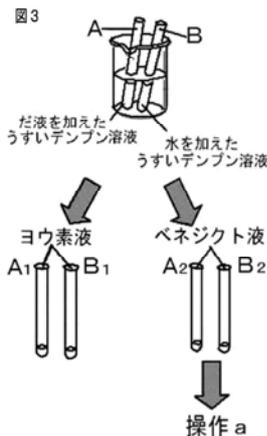
○ 心臓のつくりと機能の理解を図るとともに、循環経路の模式図により、物質の循環をモデルで説明する活動を取り入れ、総合的な見方や考え方を養うようにすることが大切である。

2 2 (1) 対照実験における条件制御の根拠を問う問題

通過率 (38.8%)

無解答率 (12.6%)

2 図3のような実験を行い、だ液のはたらきを調べた。次の各問いに答えなさい。答えを選ぶ問いについては、記号で答えなさい。



【実験方法】

- ① 同量のうすいデンプン溶液が入った試験管A、Bを準備し、試験管Aにはだ液を、試験管Bには水を加えた。(試験管AとBの中の液の量は同じ。)
- ② 試験管AとBを湯で10分間温める。
- ③ 試験管Aの液を2本の試験管に取り分け、その試験管をA1、A2とする。同様に、試験管Bの液を2本の試験管に取り分け、試験管B1、B2とする。
- ④ 試験管A1、B1にヨウ素液を加えて反応のようすを見る。
- ⑤ 試験管A2、B2の液にそれぞれベネジト液を加え、操作aを行った後、しばらく反応のようすを見る。

【実験結果】

	試験管 A1 <デンプン溶液+だ液>	試験管 B1 <デンプン溶液+水>	試験管 A2 <デンプン溶液+だ液>	試験管 B2 <デンプン溶液+水>
試験管内の色の変化	変化なし	青紫色	赤かつ色	変化なし

(1) 対照実験として、だ液を加えた試験管Aに対して、水を加えた試験管Bを用意した。試験管Bを用意する理由を説明せよ。(「対照実験」という言葉は使わないで説明すること。)

○ 対照実験で、設定する条件の理由を問うことで、科学的なものの見方や考え方による思考、判断を求めた。

○ 条件制御の設定を機械的に捉え、条件を対照させる意味の理解が不足している。実験企画に重点をおいた指導計画が必要である。

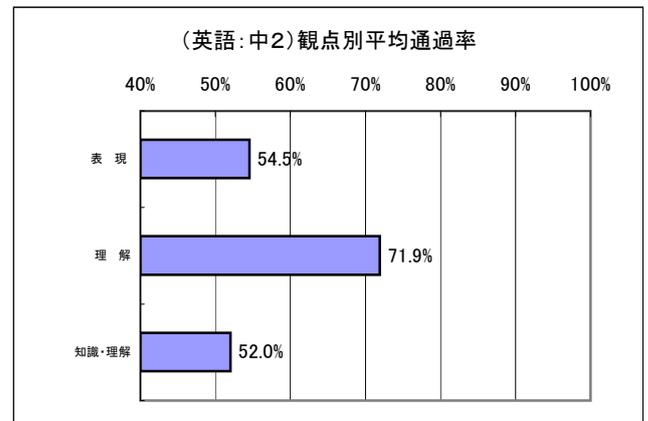
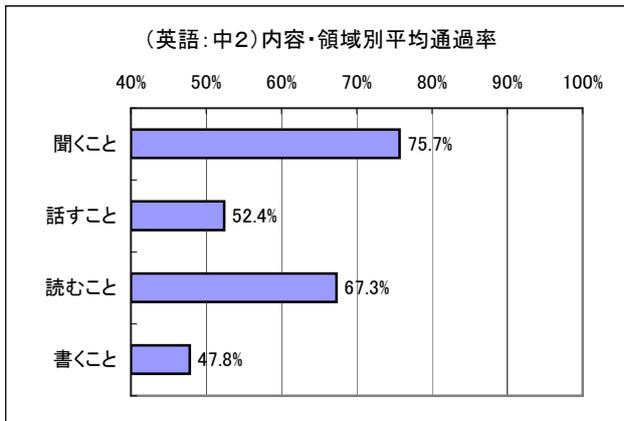
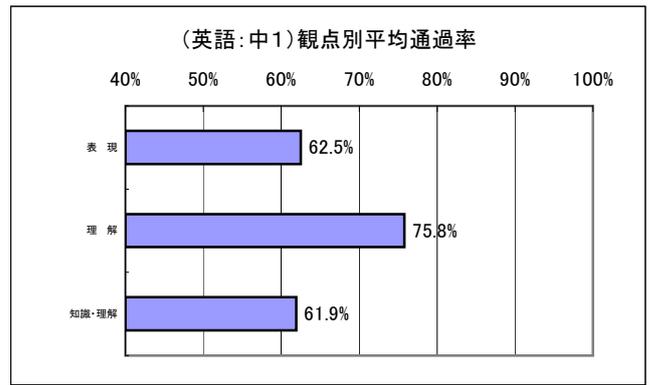
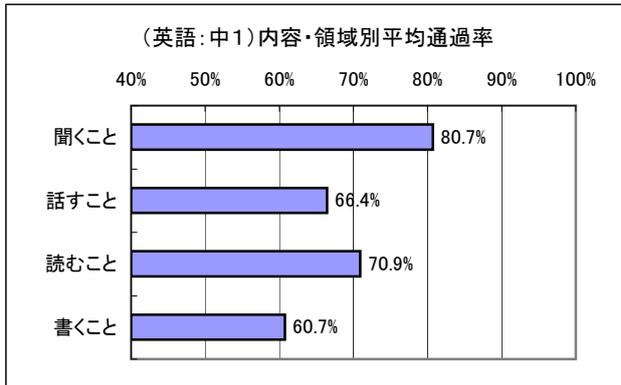
○ 観察・実験による探究的な学習は、生徒の目的意識の持続が重要である。目的意識に基づく思考、判断を通して知識・理解が獲得されるように、授業ごとに学習活動の重点化を図ることが求められる。また、実験中の机間指導を通して、「実験の目的」「操作の意」の理解を確認することが大切である。

(5) 【英語】

学年別平均通過率

中1 70.0%

中2 62.5%



中学1年

- 「理解」については、通過率75.8%で、特に聞いて概要・要点を把握することについては定着が図られているが、「表現」については、それぞれ62.5%であり課題が残る。
「書くこと」では、自己紹介の英文を作成することには慣れてきているが、その他の場面においては授業等で頻繁に使われる語句や文構造であっても活用する力が十分でない。
(例) This book is nice. (This の記述 55.9%)
- 疑問詞、代名詞、否定文の構造等について類似の問題を出題しているが、顕著な改善はみられない。(例) What music do you like? (並べ替え 29.9%)

中学2年

- 「理解」が通過率71.9%であり、聞いて適切に応答したり、読んで要点をとらえたりする力は定着しているが、「表現の能力」及び「言語知識」について、54.5%、52.0%と課題が大きい。
- 文構造を意識して正しい語順を試す問題においては、不定詞及び「疑問詞+名詞」の理解が不十分である。(例) What sports do you like? (並べ替え 34.3%)
- 「書くこと」では、与えられたトピック「学校の紹介」については、通過率35.2%、無答率24.4%(6問平均)であり、身近な話題について既習事項を用いて表現する力が不十分である。

【 特に定着を図りたい問題 <中1英語> 】

- 8 (2)(4)(5) 対話の流れに合う表現を、与えられた語を並べ 替えて完成させる問題
 通過率 (2) (37.7%) (4) (41.9%) (5) (29.9%)
 無解答率 (2) (0.8%) (4) (0.8%) (5) (0.7%)
- 9 (1)(2)(3) 身近な人や物について説明したり、問いかけたりするなど表現する力を、適する語を記入することでみる問題
 通過率 (1) (55.9%) (2) (60.7%) (3) (30.7%)
 無解答率 (1) (11.0%) (2) (8.2%) (5) (10.3%)

- 8 次の(1)~(5)の [] の部分がそれぞれの対話の流れに合うように、[] 内の語を並べかえなさい。
- (2) A: Is this your computer? It's nice.
 B: Yes, it is. But []. (5) A: [] like?
 B: I like classical music.
- [ア not イ is ウ new エ it] [ア music イ what ウ do エ you]
 (4) A: Do you know his brother? (注) classical music: クラシック音楽
 B: No. I [].
- [ア don't イ brother ウ his エ know]

- 9 次の(1)~(3)の場面に合う英文となるように、() に適する英語を1語ずつ書き、英文を完成させなさい。
- (1) 「この本は良いですね。」と言いたいとき。 (3) 「ルーシーは私の先生を知らない。」と言いたいとき。
 () book is nice. Lucy () know my teacher.
- (2) 「あなたの名前は何ですか。」と言いたいとき。
 What is your ()?

聞いたり、読んだりして概要や要点を把握する力に比べ、適切な英文の作成や、文脈に適する語を正確に書く問題が低い通過率である。

- 大問8は、基本的な代名詞、否定文および疑問詞の文構造の理解について例年出題している。対話の流れから意味をとらえ、語と語のつながりを意識して正しく英文を作成することは、自己表現で最も大切にしたい事項である。
- 大問9は、文脈に合わせ基本的な語を実際に書くことについて出題している。言語の使用場面と英語の表現形式が結びついていないことや、口頭で表現できても文字で正確に表現できないことが課題である。
- 語と語の区切りやつながりなどに注意して正しく書くことについては、「実際に数多く書く」練習を確保することが必要である。

音声と文字で語句、表現の定着を図る

- ・ 場面に合う語句や表現を音声により慣れ親しんだ上で、書くことをとおして定着させる。(音声と文字の結びつきを図る指導の工夫)

実際に数多く書く

- ・ 生徒が自分の意思で学んだ英語を書く活動を授業や家庭学習において設定する。その際、同じ文構造であっても数多く書けることを評価し「書くこと」に対する動機付けを行う。

9 (1)→ (This を使って自分の部屋にある品物を10個紹介する。)
 (3)→ (友だちが知らないことを、10以上紹介する。)

- 中学校学習指導要領解説外国語編 P 17 ~ 19 エ 書くこと
 鹿児島ベーシック 中1 22年度改訂 19

【 特に定着を図りたい問題 <中2英語> 】

11 指定されたトピックについて、自分の考えを与えられた語等を利用して3文以上書くことができるかをみる問題

【1つだけ文が正確に書けた】	【内容が伝わる文を1つ書けた】	無解答率(1文目から)
通過率(48.0%)	通過率(54.6%)	(18.0%)
【2つまで文が正確に書けた】	【内容が伝わる文2つ書けた】	無解答率(2文目から)
通過率(28.1%)	通過率(38.2%)	(24.4%)
【3つ全て文が正確に書けた】	【内容が伝わる文を3つ書けた】	無解答率(3文目だけ)
通過率(16.4%)	通過率(25.8%)	(30.7%)

※(正確さ)スペリング, 符号, 表記等全て正しい ※内容が伝わる文(細かいミスはあるが, 内容は伝わる文)

11 あなたは、新しく来る ALT の先生に自分の学校について紹介する予定です。 に注意して発表する内容を英語で3文以上書きなさい。ただし、最初の文は My school is に続けて書きなさい。

- 下の の語を使ってもよい。
- すべて英語で書き、ピリオドやコンマなどの符号や大文字、小文字の使い方に注意して書くこと。数字は英語にする必要はない。
- 同じ内容の英文を繰り返さないように書くこと。(My school is ～を繰り返すなど)

I'm going to talk about my school.

My school is _____

J.H.S.	中学校	school lunch	給食
subject	教科	school event(s)	学校行事
class	授業		

- 自分の考えを記述する問題の通過率は、例年低い。英語で表現することに不慣れであり、どのように書いたらよいのか分からないことが原因である。
- 身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ち等を書くことは、既習の語句や文構造の活用を実感させる上で大切にしたい学習活動である。
- まとまりのある文章を書く力を高めるために、身近な話題(トピック)を提示し、どの程度表現させたいかの中・長期的視点でとらえ、継続的な指導を行う必要がある。

トピック(例)

- ・ 「自分の好きな人, もの」「ある日の日記」「自分の学校」「就きたい職業」
- ・ トピックについて、生徒自身の考えが広がる工夫を行う。(イメージマップ等)

指導の工夫(例)

- ・ 表現に必要な語彙や文構造について口頭練習を行い音声イメージを作る。(最小限の文脈で必要な語彙の定着を図る活動, ペアによる英問英答等)
- ・ 音声により慣れ親しんだ上で、語と語のつながりなどに注意して書く。(音声と文字の結びつきを意識させて書く活動, 基本となる文構造を視覚化し、語順を意識させて書く活動)

- 中学校学習指導要領解説外国語編 P 17～19 「エ 書くこと」
鹿児島ベーシック中2 22年度改訂 21